

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値
072010_福島市	①学校運営上の課題	その他	学校運営上、教員の時間的、心理的な業務増加が課題となっている。特に、小学校では学習指導要領改訂で指導時数が増加したことによる時間的な余裕のなさが生まれて来ている。(授業準備等に要する時間の不足)	地域学校協働本部が各学校と面談し、教職員の負担軽減につながるボランティアについて把握した上で、学校のニーズに合致した学習ボランティアをコーディネートしてきた。	これまでの取り組みを継続するとともに、各学校独自で取り組んでいる地域学校協働活動の事例、活用している学習ボランティアに関わる情報を地域学校協働本部より各学校に発信することで、コーディネートの幅を広げる。(事例報告書の学校への配付数を増やすこと、学校ボランティアリストを全市で共有すること等)	地域学校協働本部が学校の求める人材(ボランティア)をコーディネートすることで、教員の時間的、心理的な業務負担の軽減に結び付ける。	本事業における事業評価アンケート(学校を対象)で「教員の負担軽減効果」について4段階評価で4と回答した学校数の割合(小・中学校別)	小学校70 中学校55	%	小学校75 中学校60
072010_福島市	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	自己有用感を十分に感じている学校支援ボランティアは31%、ボランティアに対する意欲を感じている学習支援ボランティアは38%であり、ボランティアの自己有用感、意欲を高める事が課題となっている。	地域学校協働本部が各学校と面談し、この課題を伝え、ボランティアとの事前打ち合わせ、事後対応への配慮を依頼した。また、「学校支援ボランティア研修会」の開催により、ボランティアの確保とその資質向上を図った。	学校との対応については、これまでの取り組みの成果が表れてきているので、それを継続する。また、ボランティアの確保等については、「学校支援ボランティア研修会」の広報範囲をより一層広げる。(学校の保護者にも広報する等)	学校支援ボランティアの自己有用感、活動意欲を向上させること、ボランティアをより多くを確保することにより、地域学校協働活動をより活性化させる。(指導の充実、教員の負担軽減等を中心に)	本事業における事業評価アンケート(学校支援ボランティアを対象)のうち、自己有用感、活動意欲について4段階評価で4と回答した人数の割合	自己有用感75 意欲80	%	自己有用感80 意欲85